

農村林業に関する一考察

宮崎県川南村について

九州大学林政学教室専攻生 岡部 良三

開拓農家の一般に当面する林野の問題(主に畑作経営農家)は畑地の有機質の缺乏に対する家畜導入の飼肥料問題としての採草面である。之を宮崎県川南村の一旧部落の一農家と最近(昭和22年)の入植部落の一農家との実態を比較してみよう。

(一) 調査農家の概況

農家	部 落	勞 力		経 営 面 積						家計を助ける 主なる副業	
		家族数(人)	内就労者数(人)	田(反)	畑(反)	計(反)	山林(反)	原野(反)	配分地(反)		計(反)
A	松原	8	5	8.2	14.0	22.2	5.0	0.7	—	5.7	家畜 (和牛1、乳牛1、豚1、鶏30)
B	湯坪田	4	2	1.5	10.0	11.5	1.5	—	27	42	家畜、養蚕 (和牛1、豚2、鶏40)

(二) 農家の飼料 (昭和22年)

野 草	種 類	A			B		
		数量(荷)	穀粉価(荷)	見積価額(円)	数量(荷)	穀粉価(荷)	見積価額(円)
草	自給 林野						
	自給 其他	1000	84.0	5,000	370	31.1	1,850
	購入 生草	100	8.4	500	—	—	—
	計(a)	1100	92.4	5,500	370	31.1	1,850
農産物	自給 (購入付し)(b)	820	169.2	11,850	480	103.5	2,200
	青刈飼料レンゲ(c)	150	11.3	750	—	—	—
	粗飼料総計 (a+b+c)	2,070	272.9	18,100	850	134.6	2,050
	濃厚購入飼料 (自給不明)(d)			14,400			23,000
	飼料費総額 (a+b+c+d)			32,500			32,050
	備 考	燕麥栽培はA 1.0反であつたが詳細不明のため省略した。 各農家共生草を飼料として用いている林手であるが数量は不明であつた。					

農家	林野依存度(%)		農副産依存度(%)		香川飼料依存度(%)		計(%)		飼料価額中の 購入濃厚飼料 価額の比率(%)
	I	II	I	II	I	II	I	II	
A	33.7	30.3	62.0	65.0	4.3	4.3	100.0	100.0	44.3
B	23.1	20.4	26.9	29.0	—	—	100.0	100.0	71.8

註 (1) 澱粉価による依存度 (例へば 農副産澱粉価/総粗飼料澱粉価 %)
 (2) 価額による依存度 (例へば 農副産価額/総粗飼料澱粉価 %)

上表からわかる如くBの林野依存度は約20%の低い数字で之に応じて農副産物依存度は約76%と高くなっている。林野から比較的遠く農経営も畑作中心の商品的経営で農業労力にも不足しているため、遠い村有賃付林芝は採率に行かない。

飼料価額中の購入濃厚飼料価額の比率はAが44.3%、Bは71.8%で約Aの1.6倍に当り一戸所有林野の大小が畜産経営に重要な関係のあることを表示している。更に林野採率依存度と総飼料価額中の自給飼料価額の比率との関係を見れば

農家	林野依存度(価額)	自給飼料価額(A)	総飼料価額(B)	A/B%
A	30.3(%)	18,100(円)	33,500(円)	55.7
B	20.4	9,050	32,050	28.2

林野依存度の高い農家に於て飼料全体としての自給度も高くなっている。

(三) 農家の厩堆肥と林野

(1) 農家の厩堆肥

農家		林産自給	農副産自給(購入なし)
A	数量(貫)	—	770
	見積金額(円)	—	12,750
B	数量(貫)	—	400
	見積金額(円)	—	3,000

厩堆肥は本村農家の林に畑作(主要作物は甘藷)中心の農業経営にとつては全く其の生産力の最大の支柱であると考えて差支えない。

農副産厩堆肥材料は稻、麦わら類及び菜種、ソバ等の茎葉が使用されているが樹葉や野草

は厩肥材料として使用されていない。

併し牛馬飼料として給与された野草の残滓は其のまゝ厩肥材料となるものであるし、又間接的には家畜の糞尿となつて肥料に転換するものであるから農家の有機質肥料が林野に依存する度合は高いと言はなければならない。

(2) 採草能率

農 家	毎採草量 (貫) / 毎採草労働日
A	40 (/ 日九時間とした)
B	20

採草能率Bの20という低い数字は採草林野に恵まれず採草量にも恵まれていないためである。Bは新入植の開拓農家のため外見的にも屋敷林がくどことなく安定度に缺けている。畑地にレーピン、ナタネ、レンゲ等の飼料作物の導入は必須と言はねばならないし、亦開拓にともなう林野、採草地の配慮の不充分は農地の放棄となつて現はれる場合もある故一考を要する問題である。

本研究に当り板谷勉教授を始め倉沢博助教授、黒田教官に御指導を給はり特に倉沢先生には手立として頂き紙上より御礼申し上げます。